

学校情報公開

■名古屋ファッション専門学校の教育目標

名古屋ファッション専門学校は、その母体であるすみれ洋裁学院が1945年に創立以来長い歴史を重ねてまいりました。

大きな変化を続ける時代の中、常に教育理念として「実学と人間教育」を掲げ、アパレル産地として伝統のある名古屋・岐阜地区のみならず、東京を主体とした関東、大阪や神戸周辺の関西、そして海外へも多くの卒業生を送り出し、企業様からあつい信頼をいただいております。

これらの実績は、これからファッションの世界で活躍したいと思っいらっしゃる皆様には心強い支えとなることと思います。

私どもが育成を目指すのは、時代を読む力に長け、コンピュータや機械では代替することのできないクリエイティブな感性を持ち、前向きに仕事に取り組む人材です。

私どもは学生一人ひとりに応じた目標と、それを達成するための能力を創り、伸ばしていくことに全力で取り組んでまいります。

■重点的に取り組む目標・計画

- ①各学生の就職希望にあわせ柔軟に選択が可能なカリキュラム設定
- ②学外での活動時や、就職後にも通用するマナー、一般常識教育

■基本情報

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | |
|---------------------------|--|-------------------|--|--|--------|----------|
| 名古屋ファッション専門学校 | 昭和57年3月27日 | 佐藤 弥生 | 〒460-0007 愛知県名古屋市中区新栄1丁目9番6号 (電話) 052-241-7381 | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | |
| 学校法人 中西学園 | 昭和38年1月21日 | 中西 克彦 | 〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地 (電話) 0561-74-1111 | | | |
| 学科の目的 | 教育基本法の精神に則り、学校教育基本法に伴い、産学協同のもとファッションに関する専門教育を行うことを目的とする。 | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 修業年限 (昼・夜) | 全課程の修了に必要な総 授業時間数又は総単位数 | 専門士の付与 | 高度専門士の付与 |
| 服飾・家政 | 服飾・家政専門課程 | ファッションマスター科 | 3年 昼 | 2700時間 | 有 | 無 |
| | | ファッション流通科 | 2年 昼 | 1800時間 | 有 | 無 |
| 教育課程 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | |
| ファッションマスター科 | 1490時間 | 90時間 | 2620時間 | — | — | |
| ファッション流通科 | 1010時間 | 60時間 | 1510時間 | — | — | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数 (生徒実員の内数) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 340人 | 217人 | 0人 | 8人 | 21人 | 29人 | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験・レポート及び作品提出ほか、学習態度・出席状況を考慮して4段階で評価する。 | | |
| 長期休み | ■学年始め:4月1日 ■夏季:7月11日～8月31日 ■冬季:12月21日～翌年1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日 | | 卒業・進級 条件 | 出席日数が年間の出席すべき日数の2/3以上であること。所定の単位数を超えて修得していること。 | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応として、本人と面談及び保護者との相談に応じる。 | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ファッションショーの参加等 ■サークル活動: 無 | | |
| 就職等の 状況 (平成29年度卒業生) | ■主な就職先・業界等 アパレル・ファッション業界 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 97% | | 主な学修成果 (資格・検定等) | パターンメイキング技術検定・パーソナルカラー検定 ファッションビジネス能力検定・フォーマルスペシャリスト検定 小林豊子きもの学院きもの講師免許・ファッション販売能力検定 ケサランパサランメイクデュープロマ・国家資格商品装飾展示技能検定 | | |
| 当該学科の ホームページ URL | URL://www.fashion.nsc.ac.jp/ | | | | | |

| 大項目 | | 具体的な評価ポイント | | 評価点 | 課題と改善点 |
|-----|-----------|------------|---|-----|---|
| I | 人材育成・像・目的 | 1 | 学校理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) | 3.7 | もの作りを学びアパレルの企画生産関連職に従事することを目標とした学科、コーディネートを学び販売流通関連職に従事することを目標とした学科とそれぞれの特色を明確に打ち出している。数年先までを目標にした構想は立てられているが、若年層の減少に伴う学生数の大幅な変化などを見据えた中期的な将来構想は現在策定中である。 |
| | | 2 | 学校における職業教育の特色は明確であるか | 3.8 | |
| | | 3 | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3.3 | |
| | | 4 | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3.3 | |
| | | 5 | 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3.5 | |
| II | 学校運営 | 1 | 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 3.6 | 運営方針は毎年教員のミーティングで明確に決められており、運営方針に沿った事業計画を話し合い、実行するよう努力しているが、成果についてはそれぞれの学科などでバラつきがある。 |
| | | 2 | 運営方針に沿った事業計画は定められているか | 3.6 | |
| | | 3 | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3.5 | 中西学園理事長をトップとした運営組織は組織図と職務分掌により決められているが、事業ごとの意思決定に関する部署や最終決定者については明確な規定が少ない状態である。 |
| | | 4 | 人事、賃金面での処遇に関する制度は整備されているか | 3.4 | |
| | | 5 | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 3.5 | 雇用に関する制度は整備されており、就業規定により周知されている。 |
| | | 6 | 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3.4 | |
| | | 7 | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 3.6 | 学内LANシステムが導入され、学籍や成績管理などで使用されている。導入から時間がたち経年による不便が生じているので改善の必要がある。 |
| | | 8 | 情報システム化等による業務効率化が図られているか | 3.6 | |
| III | 教育活動 | 1 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 3.7 | 専門分野に必要な技術、知識については業界ニーズをほぼ満たしているが、入社試験における一般常識問題や学力試験などへの対応力が弱く、今後強化していくべき部分である。 |
| | | 2 | 教育理念、育成人材像や業界にニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3.7 | |
| | | 3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 3.8 | 教員それぞれが各自の担当する科目に関する実務経験を持ち、常に業界ニーズを把握し学生への指導に落とし込むよう努力している。科目内容については就職状況なども踏まえ年度ごとに内容の見直しを行っている。 |
| | | 4 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 3.7 | |
| | | 5 | 関連分野の企業・開発施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 3.7 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっており、学期ごとの認定会議により問題のある学生に対する指導措置が決定される。 |
| | | 6 | 関連分野における実践的な教育産業(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 3.8 | |
| | | 7 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 3.1 | 教員の研修については年度ごとに計画を立て、研修、セミナー参加などを推奨し実行している。アパレル業界の不況感により以前に比較し授業に落とし込むような内容の研修会、セミナーの開催が減少しているのが問題である。 |
| | | 8 | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 3.2 | |
| | | 9 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 3.7 | 学生の資格取得については、資格取得自体を目標とせず、それぞれの学科の授業との連動を吟味し卒業生が就業後に実社会で役立たせる資格を取得するよう勧めている。 |
| | | 10 | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4.0 | |
| | | 11 | 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 3.6 | アパレル業界の好況感が感じられない中、学生の正社員としての就職を希望する意識も年々高まっている。反面学生個々の希望職種は多様化しており、新たな就職先の開発や企業ニーズの掘り起こしに力を入れている。 |
| | | 12 | 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するマネジメントが行われているか | 3.6 | |
| | | 13 | 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため、教員に向けての研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3.7 | |
| | | 14 | 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3.3 | |
| IV | 学修成果 | 1 | 就職率の向上が図られているか | 4.0 | 資格取得については残念ながら資格の種類により結果にバラつきが出ている。指導方法や集中歩行期間の見直しなどを図り、更なる資格取得率の向上に努めたい。 |
| | | 2 | 資格取得率の向上が図られているか | 3.8 | |
| | | 3 | 退学率の低減が図られているか | 3.3 | 退学者は毎年一定数いる。主な退学理由として、経済面など家庭の事情、集団生活に馴染めず通学できなくなる、精神的な病に罹患する等が多数を占めている。教職員の連携によりケアを図っている。 |
| | | 4 | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3.9 | |
| | | 5 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか | 3.8 | |

| 大項目 | | 具体的な評価ポイント | | 評価点 | 課題と改善点 |
|------|---------|------------|---|-----|---|
| V | 学生支援 | 1 | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 3.9 | 就職についてはクラス担任のほか就職専任教員、教務、校長が連携して学生の就職活動を支援している。1学年の授業に就職講座があり、企業リサーチ、エントリー指導、入社試験時のマナーなど、場合により外部講師の授業も取り入れながら支援している。 入試における制度には、①奨学生入試を行い、成績優秀者には授業料1年免除又は入学金免除 ②社会人、大学卒業生においては入学金免除 ③服飾系科目履修者においては作品審査により、入学金免除 ④ファミリー制度として、兄弟、姉妹、親子など2親等以内の親族に中西学園グループの卒業生または在校生がいる場合、入学金免除になる。入学後、家計支持者の死亡・生別・失職・疾病・災害等が原因で家庭の経済的事情が急変し、学納金を納めるのが困難な者が、修学を継続できるよう奨学金を貸与する制度がある。 卒業生を含め在校生以外の学校関係者との連携が更に深まるよう努力していきたい。 |
| | | 2 | 学生相談に関する体制は整備されているか | 3.7 | |
| | | 3 | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 3.9 | |
| | | 4 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 3.5 | |
| | | 5 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3.5 | |
| | | 6 | 学生の生活環境への支援は行われているか | 3.5 | |
| | | 7 | 保護者と適切に連携しているか | 3.7 | |
| | | 8 | 卒業生への支援体制はあるか | 3.4 | |
| | | 9 | 社会人のニーズを踏まえ教育環境が整備されているか | 3.6 | |
| | | 10 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3.6 | |
| | | 11 | 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか | 3.5 | |
| VI | 教育環境 | 1 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3.9 | 教室や備品については計画的に刷新、点検補充を行い、業界ニーズに合った教育環境を整えている。パソコン、パソコンソフト、マシン、ボディなどは常に東海地区の同種の専門学校の中では質、量ともに最も充実している。 専門学校合同での消防訓練については3年ほど行われていない状況である。自然災害に備えた備蓄などは準備されているが今後今以上に防災の備えの充実を図る。 |
| | | 2 | 学外研修、海外研修、インターンシップ、等について十分な教育体制を整備しているか | 3.9 | |
| | | 3 | 防災に対する体制は整備されているか | 3.3 | |
| VII | 学生の受け入れ | 1 | 学生募集活動は、適正に行われているか | 3.7 | オープンキャンパス、学外ガイダンス、合同説明会などで学校の特色を周知するよう努めている。ここ2年余り入学者数が増加しているが、その直接的な原因が分析できていない。 教育成果の伝達については、就職実績や外部コンテスト入賞記録などわかりやすい実例を挙げ、教育成果を伝えるよう努めている。今後は教職員個々の学生募集に対する意識、能力を嵩上げし、より効果的な学生募集につなげたい。 |
| | | 2 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3.8 | |
| | | 3 | 入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われているか | 3.8 | |
| | | 4 | 学納金は妥当なものとなっているか | 3.8 | |
| VIII | 財務 | 1 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 3.6 | 中西学園として財政の中期計画が立てられ、予算計画に基づく経費使用が行われている。会計事務所に依頼し、年に1回会計士による公正妥当な監査が適正に行われている。 財務状況公開URL https://www.nakanishi.ac.jp/data/finance.html |
| | | 2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3.7 | |
| | | 3 | 財務について会計監査が適正に行われているか | 3.8 | |
| | | 4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 3.8 | |
| IX | 法令等の遵守 | 1 | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 3.7 | 法令に沿った適正な運営が行われている。適宜所轄庁や法律家に相談し法令の遵守に努めている。 個人情報などは施錠されたロッカーに保管され、取り扱いについては十分配慮している。パソコンデータなどの取り扱いについても立ち上げる際のパスワードの設定などを徹底している。おおよそ個人情報保護法に則った運営ができています。今後の課題としてはサイバー攻撃などを想定したネットワークセキュリティの強化が喫緊である。 平成29年度より年に1度の自己評価、学校関係者評価を行い学内外の問題点の洗い出し、運営方針の決定に役立っている。 |
| | | 2 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 3.7 | |
| | | 3 | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 3.4 | |
| | | 4 | 学校自己評価の結果を公開しているか | 3.3 | |
| | | | | | 自己評価結果公開URL http://www.fashion.nsc.ac.jp/ |

平成 30 年 9 月 1 日

学校関係者評価報告書

名古屋ファッション専門学校
学校関係者評価委員会

名古屋ファッション専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 29 年度自己評価報告に基づいて平成 30 年 6 月 21 日に学校関係者評価委員会を開催しました。内容を以下の通り報告いたします。

1. 学校関係者評価委員会出席者

本 多 徹 氏 株式会社アパレル工業新聞 主幹
中 村 浩 一 氏 株式会社 dmd NBGF 事業部 プロデューサー
安藤 美恵子 氏 株式会社エフビー 取締役(卒業生)
阿 部 麻 衣 氏 LILLT 代表(卒業生)

校 長 佐藤 弥生
教務主幹 桐谷 里砂

2. 報告内容

①意見交換

学校自己評価結果に基づき各委員から意見をいただきました。

I 教育理念・目的・人材育成像

現状と課題

- ・ 教育理念である「実学と人間教育」の浸透度がいまひとつ感じられない。
- ・ 学校の理念は変わらないものだが、時代に合わせて目標は変えてゆく必要がある。
- ・ 入学を希望する若い人たちにとって分かりにくい言葉遣いではないか。

II 学校運営

現状と課題

- ・ 学校運営の目的は絞られているが、それを実行する為の人員の確保、教員の世代交代に向けての準備が不足しているのではないか。
- ・ 学校の運営方針が事業計画、カリキュラム、科目の授業内容へと落とし込まれていく過程が分かりにくい。

Ⅲ 教育活動

現状と課題

- ・ 学生の基礎学力低下(質の低下)が見られる。一般的な常識を学べるような指導が不足している。
- ・ 教員の質の向上の為に外部の研修に積極的に参加することが望ましいが、現状の研修分野や内容に偏りはなにか。
- ・ 資格試験の合格率が一般の平均より低いものが多い理由はなぜか。原因の追究と対策が必要。

Ⅳ 学修成果

現状と課題

- ・ 企業とのコミュニケーションを更に図り、業界ニーズの把握、就職試験対策を行っているか。就職対応について各教員が連携しているか再確認。
- ・ 退学者または退学者予備軍について、その原因を担当だけではなく学校全体で把握し、声掛け、学習支援を行う必要があると感じる。
- ・ 同窓会はあるがあまり機能していない。新しい形での同窓会的な輪が必要ではないか。

Ⅴ 学生支援

現状と課題

- ・ 専門学校に入学するような若年層はコミュニケーション能力が不足していることが多い。クラス担任との相性が大変重要だが、一人の教員だけではなく複数の教員がクラスに関わる仕組みは作れないか。
- ・ 精神面での専門的なケアが必要な学生に対してどのような対応ができるか。学校として行わなければならない範囲はどこまでなのか。
- ・ 経済的に余裕のない学生、または入学希望者の中にも優秀な学生がいると思う。その支援にどれくらいの予算が割けるのか検討の必要がある。

Ⅵ 教育環境

現状と課題

- ・ 東京の学校に比較して学生の学習環境は広々していて良いと感じる。
- ・ 校舎の取り壊し、施設の移動などの影響で、今まで広報的に PR していた「学校設備の充実」具合に変化があるのか、魅力が少なくなるのか。
- ・

Ⅶ 学生募集

現状と課題

- ・ 入学選考の際に特待制度などを設けて他校との差別化を図る。
- ・ 18歳人口減を見込み、既卒者、社会人へ門戸を広げる工夫があるのではないか。
- ・ 高校生が魅力を感じる学校の PR ポイントを職員全員が共有し、尚且つそれを効果的に伝える工夫、練習をするべき。

VIII 財務

現状と課題

- ・ 収入、支出を更に吟味して無駄な支出をなくし、有効な予算の使い方を考える。組織は意外と気づかないうちに無駄な経費を使っていることが多い。

IX 法令等の遵守

現状と課題

- ・ 現在特に問題はないようだが、個人情報管理に関する学校全体の意識が低いようにも感じる。情報管理に関するセミナーなどを受講する必要があるのではないか。
- ・ 学生間での SNS を使ったいじめの防止などには注意しているか。

②今後の課題

多くの貴重なご意見をいただきましたが、なかでも学生の基礎学力の低下や家庭の経済的な状況の悪化などの問題点のほか、教員の研修についての時間不足、更に個人情報の管理体制の問題点などについては近々に学校として改善に注力していきたいと思えます。今年度、もしくは来年度早々に情報管理についての教員向けセミナーの実施、次年度の学生募集に向けていただいた意見を元に広報方法を変更するなどの取り組みをする予定です。

以上